

平成24年度
(第3/3回)

(集団研修)

ゼロエミッション型農業・農村開発

実施要領

平成25年3月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	4
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	5

参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 カリキュラム（案）
- 付表－3 研修日程（案）
- 付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：(集団研修) ゼロエミッション型農業・農村開発

英文：Group Training Program on

“Zero Emission-type Agriculture and Rural Development”

(2) 受入期間 平成 25 年 3 月 20 日 (水) ～ 5 月 18 日 (土)

(3) 技術研修期間 平成 24 年 3 月 26 日 (火) ～ 5 月 17 日 (金)

(4) 受入人数、割当国

受入人数：7 名

(課題別研修) 5 名+ (国別枠) 2 名

割 当 国：アルバニア (1)、中華人民共和国 (2)、ウクライナ (2)

(下線は受入国)()内は受入数

国別枠：中国 (2)

(5) 類型：課題解決促進型

(6) 使用言語：英語

2. 案件の背景・目的

地球環境時代を迎えて、経済的・社会的・環境的な意味において持続可能な社会の形成が国を問わず世界共通の課題となっているが、失業者が増大している途上国では経済的貧困からの脱却が強く求められ、いかに農業廃棄物の再活用・再生資源化・適正処理化と農業生産の増大を両立、併進していくかが喫緊の課題である。特に農業により生じた排出物を再生資源化できる農村体制が整っておらず、家畜糞尿の垂れ流しによるメタンガスの発生や土壌・水質汚染、作物残渣物の燃焼による二酸化炭素の発生等、環境への悪影響が深刻である。さらに増大する食糧需要に応えるためには農業の集約化・大規模化が避けられず、大量発生した廃棄物が原因で農村および地球環境にさらなる悪影響を及ぼす可能性があるなか、コスト面および技術適応性の点から適用可能な廃棄物の再生資源化を推進することが重要となる。

3. 案件目標

地方政府レベルの農業・農村開発計画を所管する組織の実務者により、農業・農村開発を目的とする事業計画（案）にゼロエミッション型環境保全型手法を取り入れた改善（案）が検討される。

※上位目標：地方政府（local government）レベルにおいて策定される農業・農村開発事業計画（案）に「経済・社会・環境の持続可能な発展」の概念を取り入れた改善（案）が提案される。

4. 単元目標

- (1) 持続可能な日本農業・農村の実現に向けての現状・課題について説明できる。
- (2) 途上国を含む海外の持続可能な農業・農村社会の実現に向けての現状・課題について説明できる。
- (3) ゼロエミッション型農業・農村開発の構築のための農業者、利害関係者の活動を説明できる。
- (4) 自国におけるゼロエミッション型農業・農村開発のための手法を取り入れた改善（案）を策定できる。

5. 研修成果品

ア) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

イ) 本邦研修終了時

「中間報告書（Interim Report）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に行動計画（案）を作成し、コース終盤に発表する。

ウ) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた行動計画(案)を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な行動計画(案)をまとめ、帰国後6ヶ月以内にJICA北海道(帯広)に提出する。JICA北海道(帯広)は同報告書を関係者と共有のうえ、必要に応じフォローアップを検討する。

6. 研修員参加資格要件

(募集要項記載条件)

- ア. 地方政府レベルの農業・環境行政機関および関連の研究機関で中堅以上の行政官、研究員、大学教官
- イ. 農業・農村開発計画にかかる業務に3年以上従事する者。

(各案件共通資格要件)

- ウ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。
- エ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。
- オ. TOEFL CBT 200点、PBT 533点、iBT 72点以上に相当する英語能力を有すること。
- カ. 心身ともに健康なこと。
- キ. 軍に属していないこと。

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、JICA北海道(帯広)が研修コースを計画し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中は、JICA登録の研修監理員を配置する。具体的業務は次のとおり。

JICA北海道(帯広)

- ア. 実施計画書作成(案件目標、研修期間等)
- イ. 日程表の調整・作成

- ウ. 講師、視察先等への連絡・確認
- エ. テキスト、資料等の手配
- オ. 実施予算の執行管理
- カ. 通訳・翻訳（研修監理員による対応）
- キ. 評価 等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に単元目標の達成度を確認する。

(2) 評価の方法

- ア. コースリーダー等による単元目標の達成度把握
- イ. 研修員が提出する質問票による評価
- ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 北海道(帯広)、コースリーダー、講師等が参加し、研修の目標・内容、プログラム構成、指導方法等について研修全体のふりかえりを行う。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に JICA 北海道(帯広)で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

JICA 北海道(帯広)で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として7時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程(予定)

日 程	内 容
3月21日(木)	ブリーフィング
22日(金)	ジェネラルオリエンテーション 日本語(夜間)
25日(月)	ジェネラルオリエンテーション 日本語講習(夜間)
26日(火)	日本語講習(夜間)

10. 主な宿泊場所

北海道国際センター(帯広)

所在地: 〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

単元目標	課題	講義	研修項目			時間配分 (%)
			視察・実習	討論	時間配分 (%)	
1.持続可能な日本農業・農村の実現に向けての現状・課題について説明できる	①日本農業・農村の社会的・経済的な現状と課題 ②持続可能な日本農業・農村の実現に向けての取り組み事例	20世紀後半以降の世界農業の変化	0.5			11
		日本農業と自然環境	1			
		北海道・十勝の環境配慮農業および食品安全政策	0.5	YESICLEA農業の取り組みについて	0.5	
		滋賀県の「環境こだわり農産物」の取り組み	0.5	滋賀県の「環境こだわり農業」の実際 農事組合法人「万葉の郷ぬかづか」	0.5	
		先進国における農業環境問題	0.5	開発途上国での農業・農村の環境問題	0.5	
		地域複合循環農業	0.5			
		欧州環境政策(GAP)と適正農業模範(GAP)	0.5	欧州環境政策(CAP)と適正農業模範(GAP)	0.5	
		開発途上国における自然エネルギー活用プロジェクト、II	1	開発途上国における自然エネルギー活用プロジェクト、II	1	
		日本(十勝)における「再生エネルギー」、「自然エネルギー」の利用と政策	1	自然エネルギー利用型の農業経営	0.5	
		化学農業使用低減とバイオカルボネート I・II	2			
		2.途上国を含む海外の持続可能な農業・農村に向けての現状・課題について説明できる	①先進国における農業・農村の環境問題と政策 ②途上国における環境問題と再生可能エネルギー活用	日本における廃棄物の規制・再利用に関する環境政策	0.5	
環境保全型農業推進に関する市町村の支援策事例	0.5					
滋賀県の農業環境問題について	0.5					
持続可能な農業・農法をめぐる動き	0.5			減農薬栽培の取り組み	0.5	
足寄町における取組み(木質系廃材等の資源活用)	0.5			木質系バイオマスの活用事例	0.5	
環境モデル都市の取組み	1			環境モデル都市の取組み	1	
廃棄物処理場と資源再利用				廃棄物処理場と資源再利用	0.5	
十勝における有機農業経営	0.5			十勝における有機農業経営・堆肥の肥料化	0.5	
微生物の利用による環境負荷軽減技術	0.5			微生物の利用による環境負荷軽減技術	0.5	
畜産廃棄物の有効利用	0.5			畜産廃棄物の有効利用(バイオガスプラント)	0.5	
エネルギー作物に関する試験研究	0.5					
3.ゼロエミッション型農業・農村開発のための農業者・利害関係者の活動を説明できる	③試験研究機関における環境技術開発 ④環境問題と消費者行動 ⑤消費者の環境志向と環境教育	道立畜産試験場による環境対策試験研究	0.5			51
		ロハスと緑の社会的企業家精神	0.5	グリーンツーリズム・ファームインの展開	0.5	
		環境にやさしい都市農業と消費者連携		環境にやさしい都市農業と消費者連携	0.5	
		学校における環境教育		学校における環境教育	0.5	
		畜産試験場による環境対策試験研究	0.5			
		エネルギー作物に関する試験研究	0.5			
		道立畜産試験場による環境対策試験研究	0.5			
		ロハスと緑の社会的企業家精神	0.5	グリーンツーリズム・ファームインの展開	0.5	
		環境にやさしい都市農業と消費者連携		環境にやさしい都市農業と消費者連携	0.5	
		学校における環境教育		学校における環境教育	0.5	
		4.自国の農業・農村におけるゼロ・エミッション型農業・農村環境システムの構築の関する改善(案)を策定できる。	①自国の環境問題の分析/整理 インテリムレポート作成指導/発表	課題整理	0.5	
インテリムレポート・プレゼンテーション資料作成	1.0			インセプションレポート発表	0.5	
インテリムレポート作成指導				インテリムレポート作成指導	2.5	
インテリムレポート発表				インテリムレポート発表	0.5	
時間配分 (%)						100

平成24年度「ゼロエミッション型農業・農村開発」研修日程(案)

月日	曜日	時間	形態	プログラム	研修場所	宿泊先
3月20日	水			来日	帯広国際センター	帯広
3月21日	木			集合ブリーフィング		
3月22日	金			ブリーフィング/ジェネラルオリエンテーション/日本語		
3月23日	土					
3月24日	日					
3月25日	月			ブリーフィング/ジェネラルオリエンテーション/日本語		
3月26日	火	9:15-9:45		帯広市長 表敬訪問	帯広市役所	
		10:30-12:00		コースオリエンテーション		
		13:30-15:30	討論	インセプションレポート発表会		
		15:30-16:00		交流会	北海道国際センター(帯広)	
		17:00-19:30		日本語		
3月27日	水	9:30-12:00	講義	20世紀後半以降の世界農業の変化	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義	社会問題解決の支援手法1:社会問題解決の方法論		
3月28日	木	9:30-12:00	講義	欧州環境政策と適正農業規範(GAP)	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義			
3月29日	金	9:30-12:00	講義	社会問題解決の支援手法2:社会問題解決の認識と支援	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義			
3月30日	土					
3月31日	日					
4月1日	月	9:30-12:00	講義	日本の農業と自然環境	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義			
4月2日	火	9:00-12:00	講義	先進国における環境問題	北海道国際センター(帯広)	
		13:00-14:00	講義			
4月3日	水	9:30-12:00	講義	化学農薬使用低減とバイオコントロール I	北海道国際センター(帯広)/帯広畜産大学	
		13:30-16:00	講義			
4月4日	木	9:30-12:00	講義	環境モデル都市としての取り組み1	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義			
4月5日	金	9:30-12:00	見学	環境モデル都市としての取り組み2	帯広市農業技術センター	
		13:30-16:00	見学		カルビーポテト(株)帯広工場	
4月6日	土					
4月7日	日					
4月8日	月	9:30-12:00	講義	日本(十勝)における「再生エネルギー」、「自然エネルギー」の利用と政策	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義			
4月9日	火	9:30-12:00	講義	開発途上国において応用可能なバイオマス利用と自然エネルギー	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義			
4月10日	水	9:30-12:00	講義	微生物の利用による環境負荷軽減技術	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	視察	微生物の利用による環境負荷軽減技術	農産化学研究所	
4月11日	木	10:00-12:00	講義	北海道・十勝の環境配慮農業および食品安全政策	十勝農業改良普及センター会議室	
		13:00-14:30	視察	YES! CLEAN農業の取り組みについて	中札内村川田農場	
4月12日	金	9:30-12:00	講義	社会問題解決の支援手法3:解決策の評価と支援	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義			
4月13日	土					
4月14日	日					
4月15日	月	9:30-12:00	講義	開発途上国における自然エネルギー活用プロジェクト	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義	a.JICAの再生可能エネルギー関連協力		
4月16日	火	9:30-12:00	講義	開発途上国における自然エネルギー活用プロジェクト	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義	b.協力事例		
4月17日	水	9:30-12:00	講義	化学農薬使用低減とバイオコントロール II	北海道国際センター(帯広)	
		13:30-16:00	講義			
4月18日	木	9:30-12:00	講義	畜産廃棄物の有効利用	北海道国際センター(帯広)	
		14:00-16:00	視察	畜産廃棄物の有効利用(バイオガスプラント)	鹿追町環境保全センター	
4月19日	金	9:30-12:00	講義	インテリムレポート作成指導	北海道国際センター(帯広)	
		14:00-16:00	講義	研修旅行視察説明		

付表-3

4月20日	土						帯広
4月21日	日	PM(13:00頃)		移動(帯広→東京)			
4月22日	月	9:30-12:00	講義	日本における廃棄物の規制・再利用に関する環境政策	環境省		東京
		14:30-16:30	視察	環境にやさしい都市農業と消費者連携	白石農園「大泉 風のがっこう」		
4月23日	火						近江 八幡
		13:00頃東京発		移動(東京→滋賀)			
4月24日	水	10:00-12:00	講義	滋賀県の農業環境問題について	滋賀県立大学		
				琵琶湖博物館			
4月25日	木	10:00-12:00		滋賀県近江地域 環境こだわり農産物の取り組み	JAグリーン近江 大中の湖支店		京都
		14:00-16:00		滋賀県 環境こだわり農業の実際	万葉の郷ぬかづか		
4月26日	金	10:30-12:30	講義	環境保全型農業推進に関する市町村の支援策事例	農業開発研修センター研修室(京都市)		
		13:40-18:30	見学	京都視察	京都市内		
4月27日	土			移動(滋賀→帯広)			
4月28日	日						
4月29日	月						
4月30日	火	9:30-12:00	講義	地域複合循環農業	中札内村		
		14:00-16:00	見学	グリーンツーリズム・ファームインの展開	藤田牧場		
5月1日	水	9:30-12:00	講義	インテリムレポート発表指導	北海道国際センター(帯広)		
		13:30-16:00	講義				
5月2日	木			レポート作成準備(自主学習)			
5月3日	金						
5月4日	土						
5月5日	日						
5月6日	月						
5月7日	火	9:30-12:00	講義	十勝における有機農業経営	オーガニックファームトカプチ		
		13:30-16:00	講義				
5月8日	水	9:30-12:00	講義	LOHASと緑の社会的企業家精神	北海道国際センター(帯広)		
		13:30-16:00	講義	持続可能な農業・農法をめぐる動き			
5月9日	木	10:00-12:00	講義	足寄町における取り組み(木質系廃材等の資源活用)	足寄町役場		帯広
		13:30-16:00	講義	木質系バイオマスの活用事例	芽登木質ペレット製造工場		
5月10日	金	10:00-12:00	講義	道立畜産試験場による環境対策試験研究	北海道立畜産試験場		
		13:30-15:30	講義	自然エネルギー利用型の農業経営	共働学舎新得農場		
5月11日	土	8:30-10:00	視察	めむろファーマーズマーケット	めむろファーマーズマーケット		
5月12日	日						
5月13日	月	9:00-11:30	視察	減農薬栽培の取り組み	ほその農場		
		13:30-15:00	見学		ウインクリン		
		15:00-17:00	見学	廃棄物処理場と資源再利用	くりりんセンター		

付表-3

5月14日	火			学校訪問(開発教育プログラム)	
5月15日	水	9:30-12:00	講義	エネルギー作物に関する試験研究	北海道農業研究センター
			講義・ 視察	学校現場での環境教育	帯広農業高校
5月16日	木	9:30-12:00	講義	インテリムレポート作成指導(レポート提出)	北海道国際センター(帯広)
		13:30-15:30	講義		
		16:00-17:00		評価会	
5月17日	金	9:30-12:00		インテリムレポート発表会	北海道国際センター(帯広)
		12:00-12:30		閉講式	
		12:30-13:30		閉講パーティー	
5月18日	土			帰国	

年度別受入実績表

1. 応募／選定（受入）人数

	21年度	23年度	24年度	累計
応募数	4名	4名	8名	16名
受入数	4名	4名	7名	15名

※22年度は震災のため中止

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	21年度	23年度	24年度	累計
(アジア地域)				
インドネシア	○			1名
中華人民共和国	○	○●	○○●●	7名
フィリピン	○ (有償勘定技術支援)			1名
(欧州地域)				
アルバニア	○	○●	○	4名
ウクライナ			○○	2名
計	4ヶ国	2ヶ国	3ヶ国	5ヶ国
	4名	4名	7名	15名



独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター（帯広）
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
電子メール : jicaobic@jica.go.jp